

希望 のぞみ



ニュース

Vol.54 平成30年3月号

(株)つつじヶ丘在宅総合センター
〒182-0006
調布市西つつじヶ丘2-19-6
第三コーポ横田 1F

☎ 03-5315-5722

3月

自分の意思を最期まで貫いたN子さん

N子さん 95歳

『ケアホーム希望』を利用して4年になる。身体機能が衰え、食べると誤嚥をし、何度も肺炎をくり返し、入院することもあった。誤嚥しやすい状況の中でも常に「口から食べたい」「胃ろうはしたくない」と強い意志をもっていた。入浴介助をした時、鏡に映った自分の姿を見て「骨と皮だけになったわね…」と、ポツリとつぶやいた。普段からあまり弱音を吐くことがなかった N子さん。



今日から『ケアホーム希望』に行くんだよ
ほら 元気にいってらっしゃい!



ケアホーム希望



お正月は家で一緒に過ごせてよかったね

自分の最期が遠くないことに気づいているのか、「寂しさ」や「不安」、「孤独」、「切なさ」を感じているのだと改めて知り、胸が詰まった。

N子さんのそういう気持ちに「寄り添いたい」、「少しでも不安を取り除きたい」と…。

N子さんの これまでの生活においても、自分の意思をしっかりとっていて、自分の思いや希望、言いたいことはいつもはっきりと言っていた。時間通りに行動することは、以前からの生活スタイルで

終末期になってもそれは変わらなかった。

そして、どのように生きたか（生きてきたか）ということが、どのように 最期を迎えたいかということにつながっているのだ。

誰でも いずれ「死」を迎えることは 自然なこと。それまで 自分らしく生きる。

そういった 思いを 私たちは 学んだ。

「ターミナルケアを学びたい」と、以前 働いていた施設では思っていたが、『ケアホーム希望』で働くようになり、その人らしく 生きるための日々の 援助が 大切なのであり 終末期のケアは 特別なことではないのだと 今は感じ、更に精進していきたいと思う。



N子さん

たくさんの 思い出を

ありがとう…



意識が遠のいていく中
「もう春だね。
今年もみんな
花見 に行くんだよね」



夫を看送った妻からの手紙…

夫は昨年8月に90歳で亡くなりました。
『ケアホーム希望』を利用させてもらい、4年になります。
認知症があり、夜はウロウロとし、転んで動けなくなることも。食事をするのも時間が
かかったり、また誤嚥しないように柔らかいものを作ったりと、老老介護で時には
「もうダメだ」と特養の申し込みをしたり…
でも夫の顔を見ると文句を言いながらも『ケアホーム希望』の皆さんに助けられ、
介護をしてきました。
体調を崩し、入院して退院できると思った矢先に、急変しアツという間に亡くなって
しまいました。
今年のお正月、一人で家にいると急に寂しさを感じてしまい『ケアホーム希望』の
家族会に声を掛けてもらい参加しました。
いつも会っていたご家族の顔を見てホッとしました。夫が生きていた時は色々大変
だったけど、今になると「こうしてあげれば良かった」と後悔することも度々あります。
介護が大変だと言っている時が懐かしく想い、
今度は自分の番だと思っています。



ひな祭り



利用者家族と連絡ノート



ケアホーム希望では、利用中の様子を個別の連絡ノートを活用し、写真で家族へ報告しています。

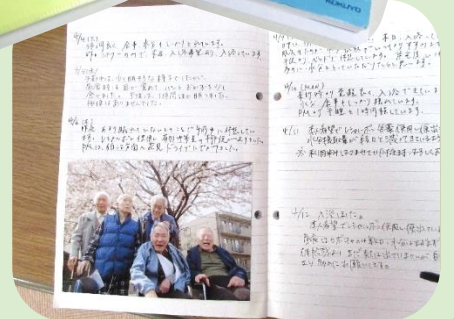
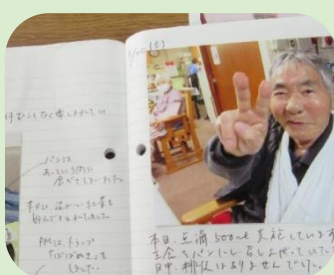
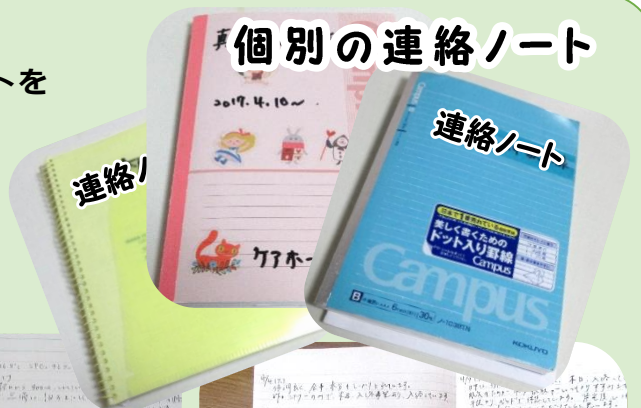
“食事は摂れているだろうか？”

“楽しく過ごせているだろうか？”

“どんな活動をしているのだろうか？” など…

ご家族が不安にならないよう丁寧に対応しています。

個別の連絡ノート



利用中の様子